



もに暮らしてきた長い歴史があります。彼らは仕事をすることを喜びとする犬たちです。

中でも、注目されているのが阪神・淡路大震災などで活躍した災害救助犬。そして、動物介在療法として高齢者や障害者にセラピー活動をを行っているセラピードッグです。犬とのふれあいによって、人の心身の健康にさまざまな効果が期待されています。

地域社会での交遊が広がる

定年をひかえた世代に、犬を飼い始める人が増えています。ふと気がつく子どもたちは独立し、奥さんは自分の楽しみや趣味を見つけて忙しく、これといって趣味もないお父さんはひとり置いてきぼ

り。これまで地域の活動にも参加していなかったため、地域社会にもなじみにくい……。思いあたりませんか？

犬がいると、地域社会とのつながりもちやよくなりやすくなります。たとえば、犬の散歩をしながら不審者、不審車両がないか、犯罪や事故につながりやすい場所がないかなどをチェックする防犯パトロール隊を始める地域も増えています。

こうして犬を介して知り合う飼い主仲間、仕事の関係で知り合った人たちとはつきあい方が違うのも大きな特徴です。つまり、地位や肩書き、収入などを競い合うストレスがないのです。犬がいることで家族や同じ地域で暮らす住民と共通の話題が増える。犬は、人間関係の潤滑油にもなっています。